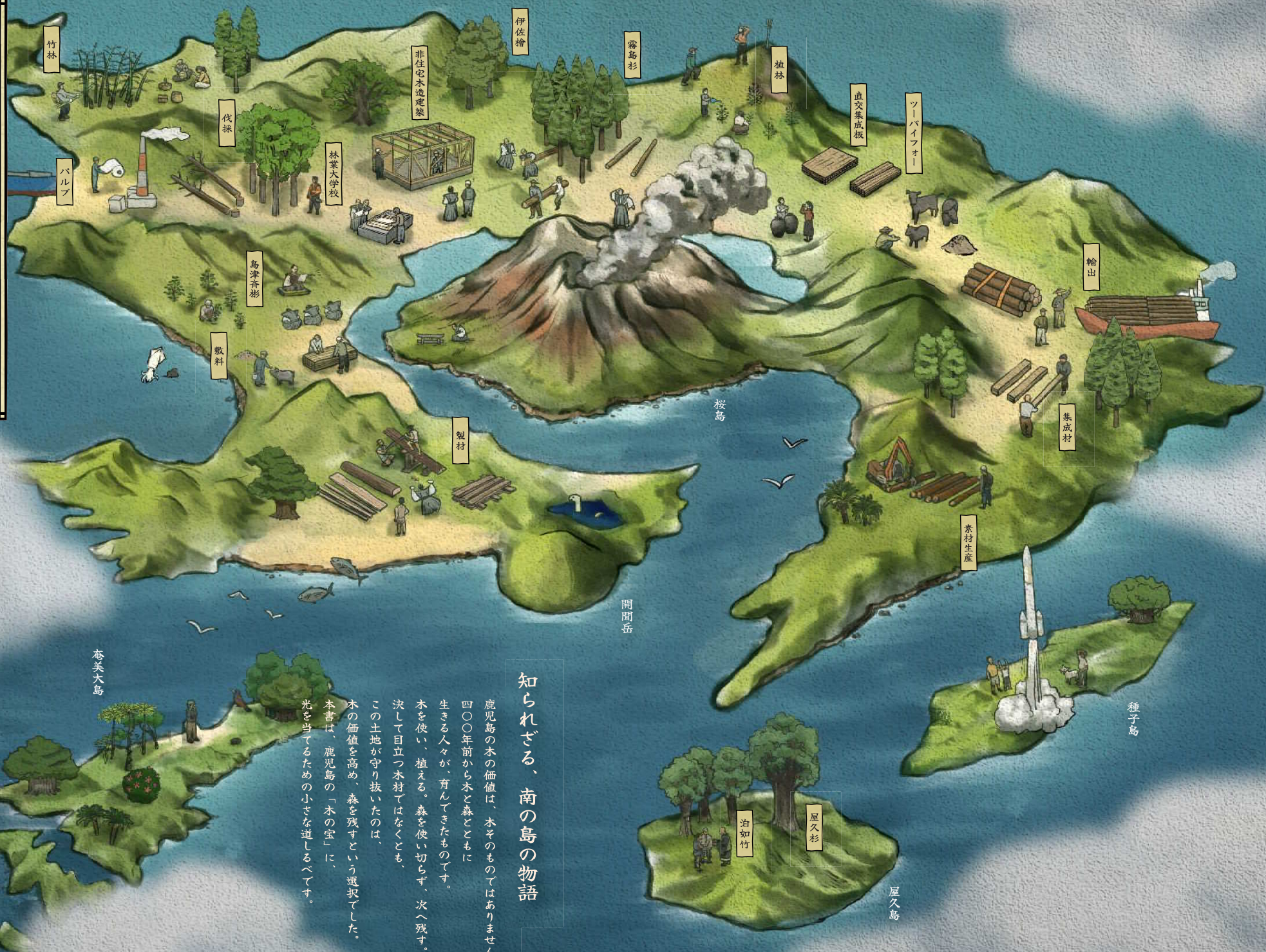


木ノ國 鹿兒島

実はすごい鹿兒島の木材産業ビジュアルガイド



知られざる、南の島の物語

鹿兒島の木の価値は、木そのものではありません。
四〇〇年前から木と森とともに
生きる人々が、育んできたものです。
木を使い、植える。森を使い切らず、次へ残す。
決して目立つ木材ではなくとも、
この土地が守り抜いたのは、
木の価値を高め、森を残すという選択でした。
本書は、鹿兒島の「木の宝」に、
光を当てるための小さな道しるべです。

実はすごい！

木ノ國鹿兒島

実は知られていない物語が盛り沢山！

三要素



写真：島津重豪公
出典：国立国会図書館
近代日本人の肖像より

其の一

森林管理

四〇〇年前の サステナブルな 森づくりの原点

豊臣政権下の二五九五年、
屋久島の木は良材として都
へ運ばれ、島津家は森林資
源の流出という危機に直面
しました。そこで一度は伐
採を厳しく禁じます。
しかし後に、儒学者・泊如
竹は、禁じるだけでなく森
を活かし、暮らしと資源を
両立させるべきだと説きま
した。その後、藩は方針を転
換し、伐ったら植えること
を徹底します。さらに全戸
に植林を課す「人別差杉」
によって、森を未来へ戻す
仕組みを築きました。
こうして二五〇年かけて
守り育てられた森を、近代
化の力へと変えたのが島津
斉彬公です。木材は燃料や
資金源となり、明治維新の
礎となりました。



上図：屋久杉

守りながら活かす森づくり
——伐って植え、循環させ
る知恵は、鹿兒島の人々の
暮らしの中にも息づいて
います。

受け継がれる サステナブルな精神

鹿兒島県では現在、森林認証の取得を県が
後押しし、地域ぐるみで持続可能な森林管
理に取り組みしています。伐って終わりでは
なく、再造林まで、森から製品、そして使
い手までつながるサプライチェーンを整え
ることで、環境にも、人にも、長
く続く林業を目指します。



其の二

木材産業

資源と技術が動かす 木材産業の最前線

鹿兒島の木材産業は、いま、
大きな転換点を迎えています。
豊富な森林資源を背景に、山と港が近い地の利を活かし、県内各地には大小さまざまな製材工場が集まってきました。近年は、大型製材、CLT、集成材、2×4工場などの大規模工場も進出し、最先端の加工技術が加わっています。
その象徴が、十五年連続日本一を誇る志布志港の丸



上図：輸出の様子

太輸出。原木輸出で築いた流れを、次は製材品の輸出へ。資源と技術が結びつく鹿兒島には、産業を未来へつなぐ可能性が広がっています。

職人の目利きを支える 確かな品質

現場で木目や色合いを確かめながら、細やかに加工を重ねる職人の目利きが、ものづくりの信頼を支えています。



其の三

木材利用

新しい木造建築に 選ばれる 鹿兒島の木

脱炭素社会の実現に向けて、都市でも木造建築が見直される時代になりました。住宅用材からCLT（直交集成材）や大断面集成材まで、鹿兒島の木が求められています。四〇〇年前から続く「伐って植え、循環させる」新しい木造建築の価値を生み出しています。



豊富な資源を、最新鋭の製造自動化ラインで高速加工する工場も県内に誕生しています。圧倒的な生産能力と安定した品質が、鹿兒島の木材産業を次の段階へ押し上げています。

最先端の技術 大規模工場が牽引

鹿兒島県で揃う主な製材品

これだけ揃うのは鹿兒島ならでは！



脱炭素社会の実現に向けて、都市でも木造建築が見直される時代になりました。住宅用材からCLT（直交集成材）や大断面集成材まで、鹿兒島の木が求められています。四〇〇年前から続く「伐って植え、循環させる」新しい木造建築の価値を生み出しています。



上図：2025年日本国際博覧会ポランド館



上図：歴久島町庁舎